



おうち

第22号
2013.2

テーマ

「子どものけんか」



「ごりら」 さとう たいが さん(年長)



「わたしのすきなたべもの」 いけだ ななみ さん(年中)

仲直り

宇都宮大学教育学部教授

渡辺 浩行



ケンカはできれば避けたい。

うまくそれをやっつけたのがYだった。

あるとき、意地悪なKはYにちよっかいを出した。小突き始めたのである。Yは、本能的に何かを察知し、少しずつKから離れ、いつの間にか遠くに行ってしまった。四歳児の見事なあしらいだった。

面白いKは、今度はTに近寄った。先の失敗からKの罠は巧妙さを増していた。可哀そうに、TはすっかりKの術中に陥ってしまった、やがて二人は取っ組み合いのケンカとなる。

そんなKだったが、一年後には他の園児と楽しく遊ぶようになっていた。その仲間にはYもTもいる。そして、時には、他の子のケンカの仲裁に入ったりもする。この変化はどこから生まれたのだろう。

それは、ケンカの後で仲直りすることを身につけたからである。意地悪をすれば、相手が傷つき、自分も傷つくことを、ケンカと仲直りを通して知ったからである。「気になる子Kはいなくなった。大人も、気持ちや思いにずれが生じ、感情的になりケンカをする。できればそれは避けたいが、避けられなかったときは、関係を断ち切るか仲直りするしかない。

互いに傷つきながらも、相手が好きならもっと好きになり、嫌いなならこれ以上嫌いにならない(できれば好きになる)よう努める。この「仲直り」は一生実践していくものであろう。

だから、子どもにはケンカをさせてあげたい。「仲直り」という素晴らしい「コミュニケーション能力が身につくようにケンカをさせてあげたい。

そんなケンカ上手を育てるのが大人の仕事だと思う。

アンケート

「子どものけんか」

今回は、「子どものけんか」について、アンケートに答えていただきました。

(対象:県内の3～5歳の子をもつ保護者 回答数:5,881人)

Q1

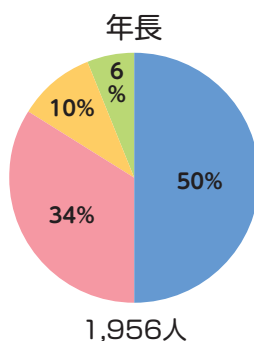
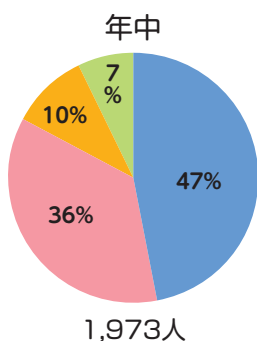
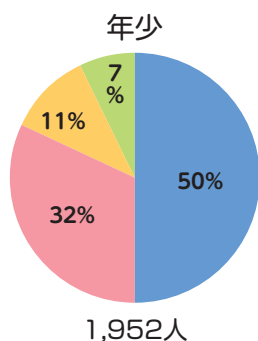
お子さんは友達とけんかをしますか

■よくする

■時々する

■あまりしない

■しない



けんかをする割合は同じぐらいだけど、きっと原因や様子は、年齢ごとに違っていているよね。



○けんかを「よくする」「時々する」を含めると、約半数の保護者がお子さんはけんかをしていると回答しています。
○どの年齢もけんかをする割合は同じ程度になっています。

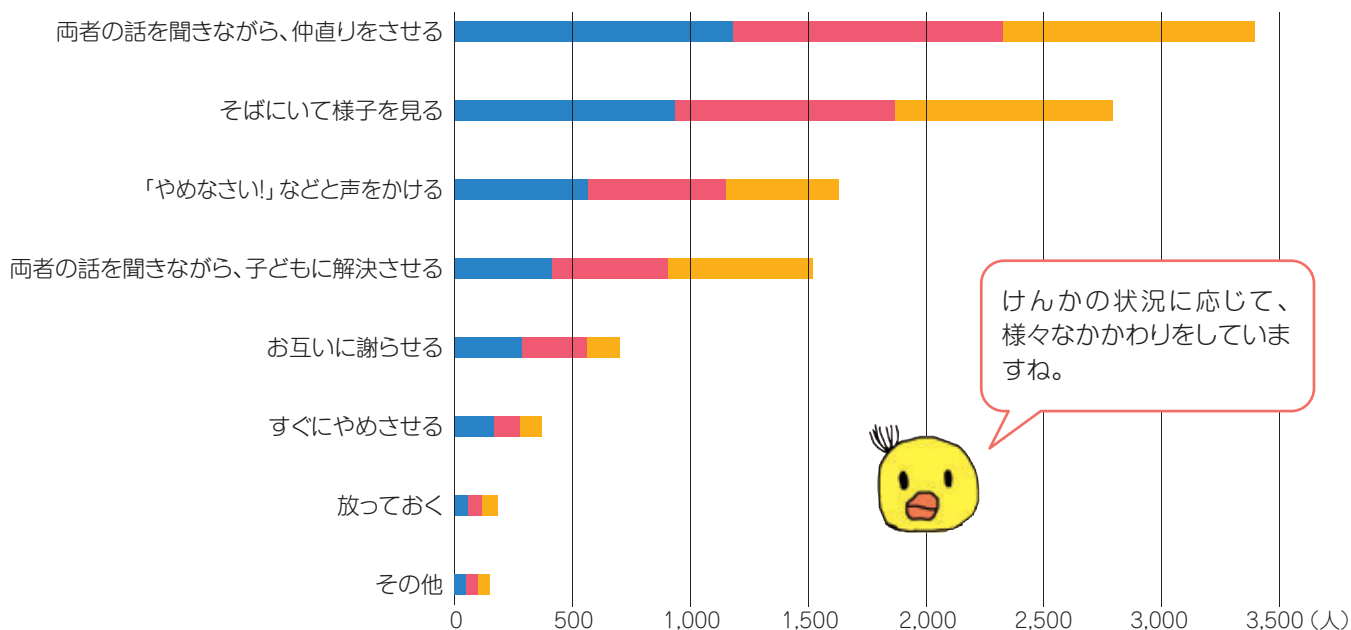
Q2

お子さんが友達とけんかをしたとき、
どのようなかわりをしますか(2つ選択)

■年少

■年中

■年長



けんかの状況に応じて、
様々なかわりをしていますね。

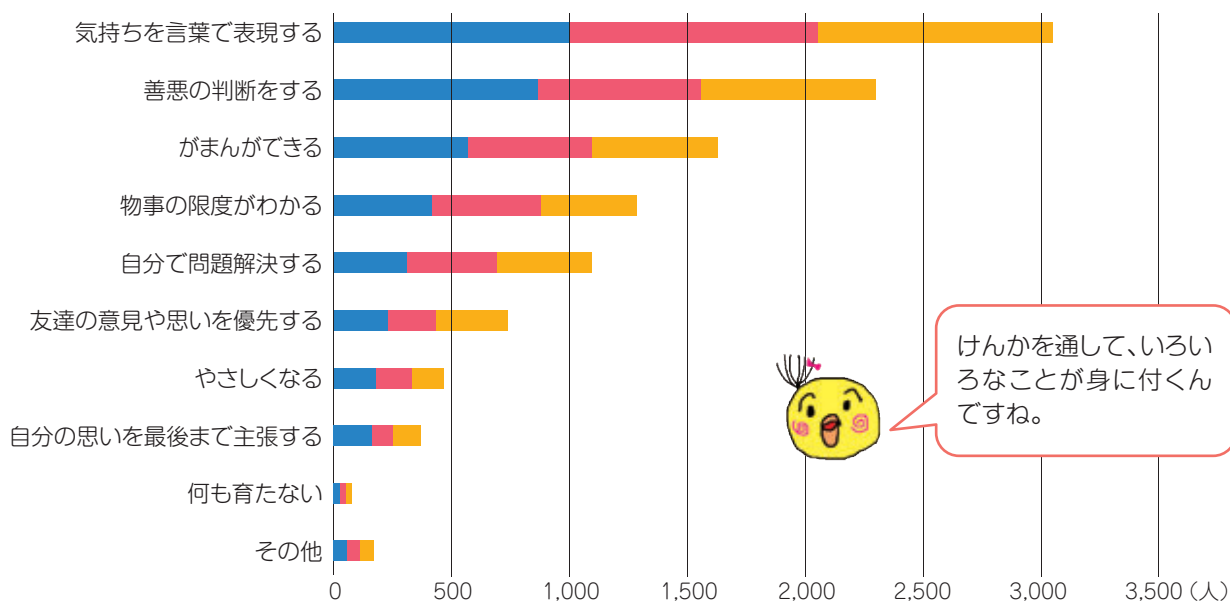


○「両者の話を聞きながら、仲直りをさせる」「そばにいて様子を見る」という回答が多いです。
○「両者の話を聞きながら、仲直りをさせる」が、回答数の半数を超えています。

Q3

友達とのけんかを通してお子さんは
どのようになると思いますか(2つ選択)

■年少 ■年中 ■年長



けんかを通して、いろいろなことが身に付くん
ですね。

- 「気持ちを言葉で表現する」「善悪の判断をする」という回答が多いです。
- 「気持ちを言葉で表現する」が、回答数の半数を超えています。

みなさんはどう思う?(保護者の自由意見より)



私も子どもの頃、よく
けんかをして、父に叱ら
れました。今は、遊ぶ時
間や場所が減って、けん
かも少なくなってきた
ような気がします。

うちの子が友達に怪我
をさせてしまいました。子
どもと一緒に謝りに行っ
たら、「大丈夫よ。子ども
のけんかでしょ。」と言っ
てくれて安心しました。

けんかをしていたの
で、止めようとしたら、も
う仲直り。小さくても、
ちゃんと自分たちで解決
できるんですね。

我が家では、きょうだいげ
んかは毎日ですが、お友達と
はあまりけんかをしません。
自分の言いたいことは言
えているので、いいのかなと
思っています。

子どもが、「今日、けんか
しちゃった。」という日には、
お風呂でゆっくり気持ちを
聞いてあげます。それだけ
で安心するみたいです。

けんかするほど、仲がいい！



私たち
仲良しだよ！



ぼくは こうしたい！
でもさ！



先生 あのね…
だって…



幼稚園や保育所での 一コマ



先生、けんかして悲しかったけど 仲直りできたよ!!

子どもと
読みたい一冊



「ともだち絵本 けんか」

シャーロット・ゾロトウ/文 ベン・シェクター/絵
みらい なな/訳 童話屋

「メアリなんてきらい だいきらいよ！」
仲良しのメアリが、いつもと違います。
さて、二人はどうなるでしょうか…。



ぴよちゃんの 応援メッセージ

幼児教育センター顧問・幼児教育専門員からのアドバイスです。



幼児教育センター顧問
神長 美津子

最近、気になる子どもの姿から

幼稚園や保育所などの集団生活では、子ども同士の「けんか」をしばしば見かけます。自己主張と自己主張がぶつかり合い、互いに譲らないけんかになってしまうのですが、年齢とともに、けんかの仕方も、またその解決も異なります。2, 3歳児では、一つの遊具をめぐって取っ組み合いになることもあります。4, 5歳児になると、遊びのイメージのズレであったり、仲間関係であったり、その要因が複雑になってきます。

また、2, 3歳児は、保育者が両者の間に入り、互いの思いを言葉にすることが必要ですが、4, 5歳児になると、必ずしも保育者のこうした直接的な仲介は必要ではありません。むしろ、子ども同士の解決をどう引き出すかが重要となります。

最近、気になることですが、いつまでも幼いけんかの仕方であったり、反対に我を張らずにけんかを避けたりする子どもがいます。けんかを通して、自分とは異なる思いをもつ他者の存在を意識するようになることは、これからの人間関係の発達の基盤となっていくことは確かであり、けんかができることが大切なのです。



幼児教育専門員
池田 和代

けんかは育ちの場

「けんか」は、子どもが他者と関わりを持ち成長していく過程では欠かせないものです。家庭内ではきょうだい、集団では友達など相手がいるから生じます。

小さいうちは、玩具の取り合いなど単純な要求行動がほとんどですが、相手とぶつかり合いながら、徐々に自分の思いの伝え方や自己主張の度合い、また、相手の思いに気づきその取り入れ方を体得し伸直りすることを身につけていきます。その都度、自己葛藤しながら我慢することや妥協点の見だし方、そして許すことを通して相手への理解や物事の限度、さらに、集団のルールから社会規範への気づきにと、社会性の育ちにととても大切な経験なのです。

年齢や内容によって子ども同士の解決が難しい場合は、両者に不満の残らないような大人の仲立ちが必要となりますが、危険な場合以外すぐやめさせるのではなく、ある程度の見守りも必要ですね。「けんか」しながらも伸直りを通して、お互いに友達としてのいい関係作りが出来るような「育ちの場」と理解したいですね。



幼児教育専門員
中里 光江

けんか = 学び

幼児にとって「けんか」は、大なり小なり誰でも経験することですね。成長過程には必ず通る道でもあります。

子どもは、成長するにしたがって自己を確立しはじめますから「けんか」があっても当然のことと思います。自分の思いを伝えられることは、相手に安心して接しているということではないでしょうか。子ども同士のぶつかり合いは、自分とは違う思いの友達がいることを学び、また解決に向かうにはどうしたらよいのか、子どもなりに精一杯考えます。そこには、妥協や駆け引きなど子どもたちの小さな社会が存在します。まさに「けんか=学び」ですね。

このように子どもたちは、仲間と楽しい遊びや苦い経験を通し、人間らしく成長していき人格形成の基礎を築いていきます。

私たち大人は、子どもたちが「けんか」を乗り越え、深い友情につながるよう大きな器で子どもたちをサポートしていきたいですね。

とちぎの幼・保・小連携 ⑫とちぎの教育未来塾

栃木県総合教育センターでは、教職5年以内の教員と栃木県の教員を目指す学生等を対象に「とちぎの教育未来塾」を開講しています。県教育委員会の指導主事等からの講義による実践的な研修や少人数のグループ協議を通して学び合う研修、実際の学校現場での研修等の20講座があります。

今回は、その中の一つである「幼稚園・保育所・小学校の連携」の講座の様子を紹介します。

期 日 平成25年1月19日(土)
参加者 120名(現職の教員 66名 学生等 54名)
内 容 「幼稚園・保育所・小学校の連携 ～学校は楽しい! 明日も学校に来たい!と思う子どもの姿を目指して～」



はじめに、総合教育センターの指導主事から、幼稚園・保育所と小学校が連携して子どもの学びや育ちを支えていく必要性についての講話がありました。幼稚園や保育所では、何でもできる年長さんとして大活躍の子どもが、小学校1年生になっても、その意欲を継続し、経験を生かして学習や生活ができるようにすることが小学校の教員の役割であるという話に、受講生の表情が引き締まりました。



1年生の国語の教科書の最初のページには、国語の教科書でありながら、文字がほとんどありません。このページをもとに「1年生の国語の授業を考えよう」というグループ協議をし、幼稚園・保育所での経験やこの時期の子どもの特性を生かした授業づくりについて考えました。受講生からは、「絵の中にある遊びを校庭でやってみる」「幼稚園や保育所でどんな遊びをしていたか聞いてみる」「どんな声や音が聞こえるか、自由に話をさせる」等、柔軟な発想やアイデアが飛び出しました。

このように、小学校や中学校等の若い教員や学生たちが、「幼稚園・保育所・小学校の連携」について学び、幼稚園・保育所から小学校に入学する子どもたちを支えてくれています。栃木県の教育を担う心強い応援団です。

「おうち」に関する御意見から

前回のテーマ「からだづくり」を読んで、休日は車で出かけることが多く、体を動かす機会が減っていたことに気付かされました。

「子どもと読みたい一冊」の本がうちの子に大好評でした!

習い事をさせるかどうか迷っています。テーマに取り上げてください。

→ホームページのバックナンバー第7号にあります。ご覧ください。



★アンケートのお願い★ 次回テーマ 「うちの子の 気になるところ」

「おうち」は皆さんの声で構成する幼児教育情報誌です。ぜひ、ご協力ください。

アンケートは幼稚園・保育所にお出しください。直接、幼児教育センターへお出しいただくことも可能です。

「おうち」22号に関するテレビ番組を放映します

とちぎテレビ番組「とちぎ教育新事情」

日 時:平成25年 3月16日(土) 10:05~10:25

再放送:平成25年 3月18日(月) 22:30~22:50

「おうち」22号をホームページに掲載します

バックナンバーはホームページで読むことができます。

栃木県幼児教育センター

検索

家庭教育ホットライン(保護者専用) TEL 028-665-7867

保護者の皆さん!お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか?秘密は絶対に守ります!一人で悩まず気軽に御相談ください!

受付時間 午前8時30分~午後9時30分 毎日(日曜日を除く)

※上記時間以外と日曜日は留守番電話・FAX(電話番号と同じ)で対応しています。

栃木県教育委員会

幼児教育情報誌「おうち」第22号 平成25年2月発行

発行者 栃木県幼児教育センター

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216

URL: <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>

e-mail: yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp

